

つなぐ

「創立40周年記念事業シンボルマーク&メインテーマ」

「日本の生活デザイン展」開催中

7月17日(土)～8月8日(日)

パークタワーホール(新宿パークタワー3F)

JID40周年記念事業の核となる展覧会「日本の生活デザイン展」が、いよいよ始まりました。会員の皆様には、先日、リーフレットと共に招待券をお送りいたしました。ご覧ください。当展覧会は、JIDの活動成果の発表の場でもあります。仕事上のお仲間やお知り合いの方々にも、JIDが企画・運営する「日本の生活デザイン展」をぜひ、ご案内ください。リーフレット、招待券には若干の余分がありますので、必要な方は事務局までお問い合わせください。

さて、当展覧会は、「生活デザイン」をキーワードと

JID

NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

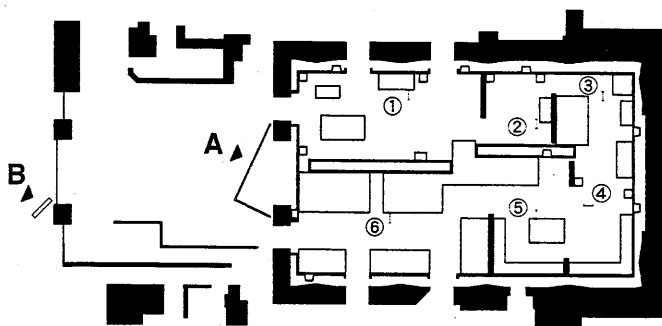
1999

6・7

「目次」

●「日本の生活デザイン展」開催	1
●定款改訂と協会の責務	2
●「第31回通常総会」報告	3
●平成10年度第4回理事会報告	3
●平成10年度第6回理事会報告	5
●幹旋業務報告	8
●新入会員の紹介	9
●新旧事務局長挨拶	9
●JID NEWS関東	10
●JID NEWS中部	12
●JID NEWS関西	14
●JID NEWS九州	16
●会員の異動	18

JAPAN
LIVING
DESIGN



1

デザイン運動の始まり

2

近代化の実践をした建築家

3

日本にやって来た
欧米デザイン文化

4

大衆社会とモダンリビング

5

商工省 工芸指導所

6

建築とインテリア

して、住環境という枠組みから20世紀の日本のモダニズムを見つめ直すことを狙いとしています。近代デザインの萌芽といえる大正期・1920年代を出発点とし、第2次世界大戦を経て、ポストモダンデザインが出現するまでの約50年間を取り上げ、住宅建築、家具、生活の身近な道具に目を向けました。企画の特徴としては、この時代のデザインの流れを6つのテーマで捉え、日本の生活デザインをリードしたデザイナーにスポットを当て、彼らの人物像を通じて日本のモダニズムへの理解を深めようとしていることです。

そこで、テーマとなったデザイナーご本人や、ごく近い人々へのインタビューを行いました。インタビューの様子は会場のビデオモニターで観ることができます。人が中心、生活が中心の、わかりやすいデザイン展覧会をめざしました。物・パネル・ビデオそして年表で、21世紀のヒントが見つかる展覧会となることを期待しています。

なお、当展覧会は、10月15日（金）から24日（日）には、名古屋・国際デザインセンターにおいて開催されます。東京展をご覧になれない方は、こちらをご覧ください。

創立40周年記念事業実行委員会
日本の生活デザイン展委員会担当理事 岩倉 榮利

定款改訂と協会の責務

理事長 泉 修二

国会審議による行政のリストラに端を発した、社団法人の定款改訂問題もこの6月で一応の解決を見ました。

通産省との1年半にわたる交渉の経過段階では企業、団体からの理事を加えねばならない文面作成の段階もありました。しかし、本庁から派遣された方々との交渉の結果、デザイナー個人を主体とする団体である私たちの真意を理解して下さり所期の目的を達しました。インテリアの国際団体であるIFIの個人の団体でなければ正会員に留まれないという杞憂もこれで氷解でした。

私たちJIDは、創立当初は自由団体として出発し、先輩方の努力によって10年後に社団法人資格を取得しました。しかし、自由団体か、社団法人団体かという選択は資格取得段階から会員間で問題になっていましたし、現在でも完全に氷解したわけではありません。そのため定款の決定を機会に社団について書くことにしました。

日本での個人と法人との格差が極めて大きいことは、税金のことを考えてもお分かりかと思います。自由団体

と社団の格差もこれと類似しています。自由団体はあくまで代表者個人であり、ひどい表現ですが、倒産の場合に会員一人一人迄責任を持たねばならないし、過去に自由団体の長が金を持ち逃げした例が一つや二つでないことはご存じだと思います。これほどひどい例を持ち出さずとも、日常会議室一つを借りるとしても、自由団体は代表者の個人が信用されねば借りにくくなります。先輩方がデザイナーの地位の向上の条件に法人格を置いたのもこのような背景がありました。

現在、私たちは多くの行政の機関や法人と仕事をおこなっています。3年目に入った中央会の活路開拓事業やインテリア産業協会、IFFT、オゾンなどからの事業委託も法人だからこそ対等に進められます。金の振込みについて公立美術館と話していた時に以下のようなことを言われたことがあります。「あなた方が組んでいる会社へ振り込む義理はない。あなた方の組織が公益法人だからこそ振り込むのだ」と。

私は法人のメリットばかりを書いた嫌いがあります。しかし大局的に言えることは、私たちの地位の向上や権利の拡大になることは取り入れ、対局にある項目は排除して行く将来を見るビジョンや、遂行するエネルギーを会員個々が持つこと、それを育てるさまざまな場を協会自体が設営して行くことでしょうか。

連帯、協同の時代である今日、デザイン団体協議会やデザインに関わる他団体との関係もさらに密に、一般社会に直接働きかけねばなりません。公共の利益を目的とし、利益を目的にはしない公益法人としての義務もあるからです。

選挙方法や名誉会員の改訂が定款改訂に付随して変わりますが、具体的な方法を定款改訂委員会を中心に総務、組織の3委員会合同で検討を続けて頂いています。

「第31回通常総会」報告

日時 平成11年5月28日(金) 15時30分～17時00分

場所 新宿パークタワー 8Fセミナールーム

議事経過

午後3時47分、山口道夫総務担当理事の開会の辞で開会。「本日現在の正会員数576名、本日出席者51名、定款24条2項による委任状提出者数391名、合計442名。定款24条による定足数は288名、よって本総会は成立した」旨、成立宣言がなされた。

議事に先立ち山口理事より定款第23条により、本総会の議長は理事長がこれにあたる旨説明した。

続いて、泉 修二理事長の挨拶があり、議事に入った。

第1号議案

平成10年度事業報告(案)及び収支決算報告(案)。創立40周年記念事業収支決算中間報告。平成10年度中小企業活路開拓調査・実現化事業収支決算報告が、山口理事より、それぞれの内容について報告が行われ、泉理事長より補足説明があった。

管理費について山中博文会員、関東支部予算について長谷川隆之会員、収支について佐々木恵子関西事業支部長より質問があり、泉理事長と、阪井良種理事が解答した。引き続き、川上理事より、平成11年4月21日東京に於いて、会計監査を行った結果、全て正しい内容であった事が報告された。議長は総会に諮り、全員異議なく承認した。

第2号議案

平成11年度事業計画(案)及び、収支予算(案)平成11年度運営組織について議案書に基づき山口理事より、それぞれの内容について説明が行われ、理事長より補足説明があった。管理費と予算について、山口博文会員。組織について、佐々木関西事業支部長。本部支部の役割について、佐藤健一会員より、質問があり、泉理事長が解答した。議長は総会に諮り、全員異議なく承認した。

第3号議案

特別会計による特別事業について、泉理事長より説明。岩倉榮利理事より、創立40周年記念事業について補足説明が行われた。議長は総会に諮り、全員異議なく承認した。

第4号議案

定款改訂(案)について山口理事より説明、今崎 務定款改訂担当理事より、補足説明が行われた。秋山修二会員より業務鑑査について意見があった。議長は総会に諮り、全員異議なく承認した。

第5号議案

議事録署名人選任は、入江 満・杉本和弥子会員案が出された。議長は総会に諮り、全員異議なく承認した。

閉会にあたり、山口理事より挨拶があり、総会議事案件、審議に対する協力に感謝する旨の謝辞が述べられ、午後6時、第31回通常総会は滞りなく終了した。

議事等の、詳しい内容に関しては事前に配付された、第31回通常総会資料を参照下さい。

平成10年度第4回理事会報告

①会議名：平成10年度第4回理事会

②日 時：平成10年11月25日(水) 13:30～17:00

③場 所：JID本部事務局 会議室

東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー 8F

④出席者：理事総数15名中(本人出席12名)

(理事長) 泉 修二

(副理事長) 中川 帛子、夏原 晃子

(理 事) 浅野盛治、今崎 努、岩倉榮利、小宮容一、阪井良種、関 里繪子、中川千年、中川千早、山本棟子

(委 任) 木村戦太郎、吉良ヒロノブ、山口道夫

(監 事) 栢原秀榮、川上信二

(傍聴出席) 石原 薫・正会員

⑤議 題

I 議 案

第1号議案 後援・協賛名義承認の件

第2号議案 議事録署名人選任の件

II 報告事項

- (1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況
- (2) 「意見書」(案) 通産省提出状況報告及びデザイン8団体第2回事務局長会議報告
- (3) 平成10年度公益法人概況調査提出報告
- (4) 平成10年度収支状況報告(9月末日現在)
- (5) 平成10年度中間監査報告
- (6) 新名誉会員の推挙について
- (7) 1999年～2000年「会員名簿」の制作について
- (8) 「JID中部学生賞」について
- (9) 幹旋業務報告
- (10) 受託事業契約
- (11) 出版「インテリアデザイナーの仕事」覚書
- (12) その他

⑥議 事

森谷事務局長より「理事総数15名中、本人出席12名、委任状3名、で本理事会は成立した」旨報告。泉理事長が議長となり議事に入った。

I. 議 案

第1号議案 後援・協賛名義承認の件(9件)

事務局長が下記9件について説明した。議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

なお、会員絡みの後援などについては、今後のために、

「後援・協賛に関する細則」を再確認することとした。

◎シンポジウム『SECTION20』・『SECTION21』

1998年11月25日(水)

主催 (社)日本商環境設計家協会

◎第21回大阪インターナショナル・ギフト・ショー・春'99

1999年2月17日(水)～19日(金)

主催 (株)ビジネスガイド社

◎第47回東京インターナショナル・ギフト・ショー・春'99

1999年2月3日(水)～(金)

主催 (株)ビジネスガイド社

◎第3回アーキテクチャ東京

1999年3月9日(火)～12日(金)

主催 (社)日本能率協会

◎「JIDAデザイン会議'98」

1998年11月20日(金)

主催 (社)日本インダストリアルデザイナー協会

◎第2回ツキ板シンポジウム

1999年2月23日(火)

主催 全国天然木化粧合板工業協同組合連合会

◎ポルトガル・スペイン工芸・デザイン研修会

1999年3月9日(火)～20日(土)

主催 (財)工芸財団

◎'99 JAPAN SHOP (第28回店舗総合見本市)

1999年3月2日(火)～5日(金)

主催 (財)店舗システム協会、日本経済新聞社

◎「テキスタイルの魅力 山口道夫の仕事展」

1998年11月29日(日)～12月13日(日)

主催 伊丹市立工芸センター、伊丹市クラフト協会

第2号議案 議事録署名人選任の件

議長は、山本棟子、浅野盛治両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

II 報告事項

各事業支部及び本部各委員会については各担当理事、(8)については関担当理事、本部事務局については事務局長が資料を基に報告した。

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

◆関東事業支部 (阪井)

賛助会員施設借用やホームページによる国際交流の検討などのほか、デザイン職人四方山話／佐々木達三のビデオ頒布協力の要請などを報告。

◆中部事業支部 (関)

去る11月21日、名古屋市市政資料館にて開催の40周年記念第2回中部フォーラム・テーマ「社会とのかかわりにおけるデザイン」(参加者15名)などを中心に報告。

◆関西事業支部 (夏原)

情報誌「ECHO」に関して、年度内に第13号の発行を予定していること及び、去る10月24日、門真市「松心会館」にて、40周年記念第1回関西フォーラム・テーマ「JIDの創立時」(参加者17名)を開

催、第2回を明年1月中旬開催予定と報告。

◆九州事業支部 (中川千年)

去る10月5日～7日、福岡市イムズビルにて、「'98九州インテリアデザイン展」の開催、その後、同展を11月21日～26日、佐賀新聞社併設ギャラリーにて再開催中であることを中心に報告。

◆選考委員会 (森谷)

清水委員長提出の1998年「JID賞」選考結果と今後の予定についての一文を基に、10月26日の最終審査を経た受賞10点について、事務局長が代って報告。

◆総務委員会 (森谷)

去る12月3日開催予定の創立40周年「記念式典・祝賀会」、1998年「JID賞」表彰式など、一連の実施内容について概略を報告し、各理事の協力を求めた。なお、関連団体の招待に関して若干の追加希望があった。

◆組織委員会 (浅野)

今回の定款改訂及び関連する会員規定の両案を併せて、組織委がすでに定款改訂委に述べたことを参考までにまとめたとし、その資料を改めて提示した。

◆国際委員会 (中川帛子)

去る10月1日～4日開催の「APSDA'98クアラルンプール会議」昨年9月開催の「Sydney Design'99」の概要及びIFI30年史を記述した「IFI 1963～1993」が発行されたことなどを報告。

◆交流委員会 (岩倉)

去る11月18日、第5回デザイン供養第1回打ち合わせ(東京)が行われたこと及び、委員による全国会議や委員会の未開催など、その事由について説明し、了解を求めた。理事会はそれらの推進を要望した。

◆広報委員会 (吉良)

インターネット対応に関するプロバイダー契約、JID及び会員のホームページの制作など、見積もり要請と価格交渉を進めていることと、去る12月15日に関連セミナー開催準備中と報告。

◆出版委員会 (山本)

委員会の開催、新機関誌の名称、発行回数(希望的には年4回)、予告版の第1号発行予定(11月末)、さらに、機関誌とJID NEWS、会員ワーク集、会員名簿などとの相互関連を検討中と報告。

◆事業委員会 (森谷)

会員ワーク集は編集作業を終え、記念式典時の参加者配付を目途に目下製作中であること及び、OZONEとのタイアップによる「JID・リビングデザインシリーズ展」(仮称)の企画などを中心に報告。

◆教育・研究委員会 (中川千早)

去る11月5日、第1回委員会を開催、本年度の委員会活動のアイディアを抽出したことなどを報告。

◆デザイン保護委員会 (小宮)

去る9月25日(東京)、11月26日(大阪)にて開催された(社)日本インダストリアルデザイナー協会主催・

JID 協力の意匠法改正セミナーの状況及び、同法運用基準（原案）に関して、時間的制約から私見を特許庁（11月19日）に回答した旨報告。

特別事業

◆定款改訂委員会（今崎）

去る9月16日の第4回委員会～11月17日の第7回委員会に至る討議経過を示し、定款第3条、第4条を中心とした討議を経て、年内に他の条文（案）を含めて作成、年明けの通産省ヒアリングに向けて備えたいと報告。

◆創立40周年記念事業実行委員会（泉）

各担当理事が、以下、現状の一端を報告。連続的開催の「フォーラム」は、各支部それぞれの事情に合わせて実施、または順次、計画をたてて進めている（浅野、関、小宮、中川千年）、その結果は支部毎にレポートにまとめる。当初計画の「シンポジウム」については現在計画中（浅野）。JID展／「椅子」100人100脚100m（IFFT '98 協賛イベント）は無事終了。出品物の返却中（阪井）。日本の近代デザイン展（仮称）は、顧問会議の開催、東京・宇都宮・名古屋など各地域開催の準備・折衝のほか、読売新聞社の後援の関わりが、1月初旬頃に明確になってくると思われる（泉）。40周年協賛募金は、現在約70万円となっている（泉）。

◆活路開拓事業委員会（中川千早）

去る10月14日、試作事業に関わるワークショップを開催（参加者28名）、11月17日には実用化試験求評事業に関わる第1回アンテナセミナー（東京）を開催（参加者95名）、また、第2回アンテナセミナー（東京）を12月19日に予定している旨報告。

(2) 「意見書」(案) 通産省提出状況報告及びデザイン8団体第2回事務局長会議報告

去る9月29日、通産省デザイン政策室に、JID：森谷、SDA：小川両事務局長が懸案の「意見書」(案)を持参、それぞれに対する通産省の見解を資料に基づいて報告。また、第2回事務局長会議（10月14日）における今後の対応についても資料に基づいて報告。現段階では閣議決定による現実的対応やむなしの方向にある。

(3) 平成10年度公益法人概況調査提出報告

去る10月13日、同調査表を通産省に提出したが、特に本年は「指導監督基準」に従って「同協会の理事2分の1以下」に関する現役員の振り分け表を併せて提出した旨、資料に基づいて報告。

(4) 平成10年度収支状況報告（9月末日現在）

4月1日～9月30日現在の収支状況について、一般会計、特別会計それぞれのポイントを資料に基づいて報告。

(5) 平成10年度中間監査報告

去る10月27日、実施した監査結果について、川上監事より、帳簿並びに関係書類の正確性を検討した結果、相互に記載と符合し、正しく示している旨報告。

(6) 新名誉会員の推挙について

資料に基づいて泉 修二、今井三郎、西澤圭三、白石勝彦、永井秀夫、内堀繁生の会員が平成11年度から該当者であると報告、今後の諾否の打診を行う予定。

(7) 1999年～2000年「会員名簿」の制作について

「会員名簿」改訂版の作製について、事務局より経済的負担から簡易なものに改変するか、努力により現行を踏襲していくかの択一を求めた。検討の結果、後者で進めることとした。発行予定は4月末日または5月末日の予定。

(8) 「JID中部学生賞」について

標題の「学生賞」について、平成9年度第6回理事会（3月24日）以降の懸案に対して、改めて関理事より理事会に意向を求めた。検討の結果、将来的にはJID賞の学生賞とする事も考えられるが、それには諸条件のつめが必要となる。当面、各支部の全体性による一定のルールのもとで実施して行くこととした。

(9) 幹旋業務報告（3件）

9月22日～11月14日の間に3件の幹旋依頼があり、いずれも「業務の受託・幹旋に関する細則」により対処した旨、資料に基づいて報告。

(10) 受託事業契約（1件）

JAPANTECH '99 特別催事「インテリアトレンドNOW」の展示企画・デザイン業務の契約締結について報告。委託者／（社）日本インテリアファブリックス協会（10月20日付）。

(11) 出版「インテリアデザイナーの仕事」覚書（2件）

標題の書籍の企画デザイン業務、編集・発行及び販売委託業務の覚書締結について報告。前者業務は(有)エーランチ（11月24日付）、後者業務は(株)住宅新報社（11月16日付）とそれぞれ交わした。

(12) その他

・訃報 新庄 晃（名誉会員）

平成10年9月23日逝去 享年83歳

・年末年始の休業平成10年12月29日(火)～平成11年1月4日(月)

・JID NEWS 12・1月号1月29日(金) 発行予定

・次回理事会開催予定('98第5回)

平成11年1月27日(水)

議長は報告事項について了承を求め、理事会はこれを了承した。

〔 平成10年度第6回理事会報告 〕

①会議名：平成11年度第6回理事会

②日 時：平成11年3月24日(水) 10:50～18:35

③場 所：JID本部事務局 会議室

東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー 8F

④出席者：理事総数15名中（本人出席14名）

（理事長） 泉 修二

（副理事長）中川帛子、夏原晃子

（理 事） 浅野盛治、今崎 努、岩倉榮利、
吉良ヒロノブ、小宮容一、
阪井良種、関 里繪子、中川千年、
中川千早、山口道夫、山本棟子

（委 任） 木村戦太郎

（監 事） 栢原秀榮（欠席）、川上信二

（事務局長）森谷延周

⑤議 題

I 議 案

- 第1号議案 平成11年度事業計画及び収支予算（案）
の承認の件
第2号議案 定款改訂（案）承認の件
第3号議案 会員規定改訂（案）承認の件
第4号議案 役員選挙規定改訂（案）承認の件
第5号議案 企画調整懇談会（仮称）設置案承認の件
第6号議案 後援・協賛名義承認の件
第7号議案 会員退会承認の件
第8号議案 議事録署名人選任の件

II 報告事項

- (1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況
(2) 平成10年度事業報告（案）及び収支決算見込み
(3) 幹旋業務報告
(4) 平成10年度年会費未納状況
(5) 日本デザイン団体協議会平成10年度第3回事務
局長会議
(6) その他

⑥議 事

森谷事務局長より「理事総数15名中、本人出席14名、
委任状1名で理事会は成立した」旨報告。引続き、泉理
事長が議長となり議事に入った。

1. 議 案

第1号議案 平成11年度事業計画及び収支予算（案）
承認の件

事務局長が同案作成のため準備会議開催状況と検討内
容について報告。続いて資料に基づいて両案の概要を説
明した。討議を経て、議長は承認を諮り、以下の採決及
び内容によっては継続検討を加えることで、いずれも異
議なく承認された。

(1) 平成11年度より、現行正会員年会費48000円を
45000円に改定する件。採決の結果、賛成14名（委任
状1通を含む）反対1名により可決。

(2) 平成11年度より、現行入会金30000円を据え置
き、または、20000円に改定する件。採決の結果、据え
置き（案）3名、改訂（案）賛成12名（委任状1通含
む）により可決。

(3) 同・入会金の各支部還元を10000円とする件。採
決の結果、賛成11名（委任状1通を含む）棄権4名に

より可決。

(4) 平成11年度の新入会員獲得目標を40人とする件。
採決の結果、賛成11名（委任状1通を含む）反対4名
により可決。

(5) 本部・委員会の統合などスリム化を図る件。採決
の結果、満場一致により可決。なお、縮小に関する委員
会数と役割などの検討については、正副理事長及び総務
担当理事に一任した。

(6) 管理費のうち人件費は300万を用途に削減を図
る。基幹事業の会員名簿（1999～2000年）の発行につ
いて、理事長より提案。今後の定款改訂及び役員改選結
果の掲載などの理由から、今期の発行は見送りたい。な
お、その間をつなぐ簡易名簿を作成したい。

(7) 平成11年度・全国中小企業団体中央会の加入団
体費を予算計上（追加）する。

(8) 本部事業の事業支出に対して、今後、事業収入の
確保を図る方策を立案し、収支のバランスをとる方向を
考える。

第2号議案 定款改訂（案）承認の件、第3号議案 会
員規定改訂（案）承認の件、第4号議案 役員選挙規定
改訂（案）承認の件

以下、今崎担当理事が資料に基づいて説明した。定款
改訂（案）については、去る3月15日、通産省のヒア
リングを経て、「定款変更許可申請書」として提出した。
現在、通産省の解答待ちと説明した。一方、会員規定改
訂（案）及び役員選挙規定改訂（案）は、当委員会段階
での原案である。今後、内容の詰めを行い、改めて承認
を求めたいとし、要点を説明した。

第5号議案 企画調整懇談会（仮称）設置（案）承認の件

以下、山本担当理事が資料に基づいて、JIDの活動全
体の把握・検討・調整のために、同懇談会を設置しては
どうかと提案した。検討した結果、この提案内容は、本
来、理事会が行うべきことではないか、次回役員選挙移
行の検討課題にしてはどうか、などの意見があったが、
運営組織のスリム化など、当面の検討の中に加えること
とした。議長は承認を諮り、異議なく承認された。

第6号議案 後援・協賛名義承認の件

事務局長が下記の6件について説明し、議長は承認を
諮り、いずれも異議なく承認された。

◎「第9回国際デザイン・フェスティバル」

1999年4月1日（木）～10月13日（水）

主催：国際デザイン交流協会

◎「国際漆デザイン展'99石川」

1999年4月1日（木）～11月30日（火）

主催：国際漆デザイン展・石川開催委員会

◎「第48回東京インターナショナル・ギフトショー」

1999年9月1日（水）～3日（金）

主催：（株）ビジネスガイド社

◎「JCD商環境デザインフォーラム仙台」

1999年4月27日（火）

主催：(社)日本商環境設計家協会
 ◎「東京支部第10回照明フォーラム
 ：光と闇～心地よい暗さへのアプローチ～」
 1999年6月11日(金)
 主催：(社)照明学会 東京支部
 ◎「Design for the World'99 東京」
 1999年7月2日(金)～7月7日(水)
 主催：日本デザイン機構

第7号議案 会員退会承認の件

事務局長が下記の23件について説明した。
 議長は承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

退会・正会員

氏 名	支部	氏 名	支部
荒 武 初	関東	水 町 信 策	関東
今 井 三 朗	関東	喜 多 計 世	中部
恵比須 正 躬	関東	小 松 暁 一	中部
加 藤 邦 夫	関東	秋 田 純 孝	関西
小 坂 希八郎	関東	足 立 和 夫	関西
小 林 清 泰	関東	金 堀 一 郎	関西
檜 崎 雄 之	関東	梶 原 昭 彦	九州
町 田 ひろ子	関東		

退会・賛助会員

社 名	支部
ウィルクハーン・ジャパン(株)	関東
(株)ダニエル	関東
(株)マルニファニシング	関東
八千代加工(株)	関東
和進化学工業(株)	関東
日進木工(株)	中部
フクビ化学工業(株)	中部
セキスイルミニング(株)	関西

第8号議案 議事録署名人選任の件

議長は、岩倉榮利、吉良ヒロノブ両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

II 報告事項

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

◆関東事業支部(阪井)

来る3月27日開催予定の40周年記念フォーラム・第3回「JIDが21世紀に向ける活動」及び、第8回デザイン職人四方山話(5月14日予定)などの開催計画を中心に報告。

◆中部事業支部(関)

去る2月20日～21日開催の40周年記念フォーラム・第3回「五感のデザイン」の開催結果(参加者15名)及び、「JID中部学生賞」3校3名の選出結果などを中心に報告。

◆関西事業支部(夏原)

夏原担当理事未到着のため小宮理事代理報告、「インテリアデザイナーのハンカチ展」「椅子'99」展の進捗状況及び、「インターネット勉強会」(3月19

日・ATCデザイン振興プラザ、参加者10名)の開催状況などを中心に報告。

◆九州事業支部(中川千年)

去る3月21日開催の第5回「例会」報告及び、来る4月24日開催予定の支部総会(福岡)などを中心に報告。

◆選考委員会(森谷)

特に進展がないことを報告。

◆総務委員会(山口)

定款改訂に絡んだ諸規程の検討に加わって協力していきたい旨報告。

◆組織委員会(浅野)

日本デザイン事業協同組合の設立に向けての中間報告として、組合設立説明会を2月及び3月に開催したこと、現在22都道府県より100数名の発起人が参画中であること、さらに、この組合の設立目的は、デザインビジネスの地位の向上にあると改めて報告した。

◆国際委員会(中川帛子)

「sdyney design'99」の開催予定及び、IFI加盟団体のホームページアドレス紹介と、7月に来日予定のIFI理事長らと交えたセミナーの開催を検討している旨報告。

◆交流委員会(岩倉)

昨日(3月23日)委員会を開催、第5回デザイン供養開催(案)や、日本の生活デザイン展開催絡みの交流会を検討中と報告。

◆広報委員会(吉良)

JIDとしてのドメイン契約、JIDとしてのホームページ立ち上げなど、その概要を資料に基づいて報告。さらに去る3月19日、関西事業支部にて「インターネットセミナー&説明会」を開催した旨報告。注：インターネット接続のプロバイダー「ぶらら」を使用。「ぶらら」はジーアールホームネット(株)が運営するネットワークサービス。'97年10月より法人会員募集を開始。

◆出版委員会(山本)

PR版第2号校正刷り及び、新機関誌「FROM JID」の企画概要(案)と、JID出版物に関するあり方の総合的検討結果などを資料に基づいて報告。

◆事業委員会(木村)

木村担当理事委任出席につき、報告資料の確認にとどめた。

◆教育・研究委員会(中川千早)

明日(3月25日)委員会を開催。田辺委員長のインド訪問報告を聞く予定と報告。

◆デザイン保護委員会(小宮)

特許庁審査第一部よりの「意匠登録速報検索サービス」実施に向けての意見聴取に、賛成の旨回答したこと及び、日本デザイン団体協議会のデザイン保護研究会の5月再開(テーマ：著作権の研究)予定などについて報告。

特別事業

◆定款改訂委員会（今崎）

12月23日（第10回）～3月23日（第16回）の委員会活動として、定款改訂に伴う諸規程の改訂案の作成、第1回～第2回のヒアリングのための定款改訂条文（案）の検討と修正、アンケート結果などについて報告。

◆創立40周年記念事業実行委員会（泉）

フォーラムを踏まえたシンポジウムは現在計画中。展覧会の呼称は顧問会議の検討を経て、「日本の生活デザイン展」と確定し、7月中旬よりOZONE開催を準備中。読売新聞社の後援は無し。宇都宮美術館の方は独自開催となり、巡回展の対象外となった旨報告。

◆活路開拓事業委員会（中川千早）

当初計画の助成事業を2月末に終了。去る3月8日、全国中小企業団体中央会へ実績報告書を提出。体裁・内容等に訂正箇所があり、3月中に差し替え提出の予定と報告。

(2) 平成10年度事業報告（案）及び収支決算見込み

事業報告（案）については、各事業支部及び、本部各委員会に報告提出を求め（4委員会未提出）作成した。収支決算見込みについては、2月末日現在の収支中間報告書を資料に基づいて説明した。なお、事業報告の文面の不足箇所については、必要に応じて修正・加筆を加えることにした。

(3) 幹旋業務報告（1件）

去る2月15日、1件の幹旋依頼があり、「業務の受託・幹旋に関する細則」により対応した旨資料に基づいて報告。

(4) 平成10年度年会費未納状況

前年同期に比較し、約11%増えたとしながら、「未納者リスト」に基づいて報告した。なお、該当者が督促に添わない場合は、会員規定に従って次回の通常総会を経て権利停止となる。

(5) 日本デザイン団体協議会平成10年度

第3回事務局長会議

去る1月14日開催の同・議事録に基づいて、「公益法人の設立許可及び指導監督基準」の一部改正に関する検討状況及び、デザイン保護研究会の再開など、討議結果を報告した。

(6) その他

・訃報 鳥海義之助(名誉会員)

平成10年12月30日逝去 享年88歳

・JIDNEWS 3・4号4月27日(火) 発行予定

・次回理事会開催予定('99第1回)

平成11年5月28日(金)

議長は報告事項について了解を求め、これを了承した。

..... 幹旋業務報告 1件

●11月20日、通産省デザイン政策室より、国際協力事業団(JICA)派遣事業に伴う専門家派遣の検討依頼あり(他団体にも照会中、競合の場合は調整)、対象国はチリ(1ヶ月)、パラグアイ(3ヶ月)、業務内容は家具デザインについての指導・助言、派遣時期は'99年4月。一応検討したものの、25日正午までという制約から、今回は見送る旨回答した。

●11月26日、板橋区立志村第三中学校より進路指導の一環として、インテリアデザイナーのオフィスへの引率訪問の要請あり。希望条件の中で7名をピックアップし紹介した。

●12月16日、フォーチュンスープ(株)(テレビ東京「TVチャンピオン」制作会社)より、第2回「全国インテリアコーディネーター王職人選手権」への選手(JID会員)紹介の依頼あり。希望条件の中で3名の会員をピックアップし紹介した。

●2月15日、(株)熊谷組設計本部設計開発室より、車の海外ディーラー日本進出計画に対して、ショールームの開設コンセプト及びインテリアデザイン提案のできる会員紹介の依頼あり。7名の会員をピックアップし紹介した。

●3月29日、(株)ドキュメンタリー・ジャパン(NHK教育テレビ/今夜もあなたのパートナー制作会社)より、ゴミとよばれるものから、新しい発想によるものづくりのできる会員紹介の依頼あり。希望条件の中で4名の会員をピックアップし紹介した。

●4月7日、(有)植木商店(テレビ東京/日曜ビッグスペシャル制作会社)より、夢のリフォーム大作戦—ノゾいてみたら隣の改築(仮題)、といったリフォームのコーディネートやアドバイスのできるインテリアコーディネーターとしての会員紹介の依頼あり。希望条件の中で5名の会員をピックアップし紹介した。

●4月26日、専修大学法学部・毛塚勝利先生より、ドイツ人学生のインテリアデザイン研修(無償)依頼の要請あり、(1名・4～5ヶ月間)東京都内のデザイン事務所であり、英語又はドイツ語でコミュニケーションがとれること、居住の心配は無用などといった希望条件の中で、以下、2名の会員をピックアップし、対象会員の都合から、そのうち1名を紹介した。

注:人選にあたっては、「業務の受託・幹旋に関する細則」第3条(3)に照らして対処した。

【新入会員の紹介】

●新しく会員になられた方々です。新しい仲間としてよろしくお願いいたします。

●正会員

会員名及び番号		住 所 及 び 電 話
菅 野 民 子 会員番号 1166 	〈勤務先・事務所〉 〈自 宅〉 〈推 薦 者〉	KANNO設計室 神奈川県川崎市宮前区宮崎2-12-1-510 〒216-0033 TEL・FAX 044-855-9474 同 上 竹岡美智子・森谷 延周
小 野 由 記 子 会員番号 1167 	〈勤務先・事務所〉 〈自 宅〉 〈推 薦 者〉	小野意匠計画 東京都目黒区駒場4-3-26 〒153-0041 TEL 03-5453-1380 FAX 03-5453-1381 同 上 TEL 03-5453-1384 木村戦太郎・須藤 玲子

「定年とリストラ」

前・事務局長 森谷 延周

私が故・豊口克平さんと原好輝さんの推薦により、念願のJIDに入会出来たのは、25才のときだった。それから35年在籍しているので、60才ということになるが、元来、年齢を気にしないものだから、ほとんどその実感がなかった。



その一方、JIDのリストラが話題となり、中でも「管理費」の中の「人件費」の大幅な削減が指摘され、それが私の「定年とリストラ」につながった。(JIDの「職員就業規則」では、満60才をもって自然退職、但し、必要により延長することがあると記されているので考えていなかった)

ところで、ピーク時の会員数は、正・賛助・名誉会員を合わせて960人(社)、1000人の大台に乗るかといわれたが、それが現在では715人(社)となっている。つまり「会費収入」を主な原資としているJIDにとって、長引く経済状況の悪化の中で、徹底的な再生と存続のため多面的検討が急務といえよう。

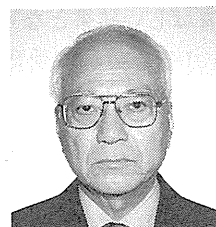
JIDの事務局長として、5年半、丁度「リビングデザインセンター OZONE」の開設準備とJID本部事務局移転準備の頃からの就任だった。仕事上は至らぬことばかり

であったが、去る6月25日、後任の峰尾武さんに引継ぎを完了。私としては、全てゼロから出直すこととなった。

「初めての仕事」

新・事務局長代理 峰尾 武

この度、森谷延周事務局長定年のあとを引き継ぎ、事務局長代理を勤めることになりました峰尾武でございます。前任の森谷さんは今まで大変多くの実績を残されました。それに引きかえゼロから出発する私は力不足です。一度はご辞退申し上げましたが、なんとかやるようにとのことで、お引受けすることとなりました。



今までも又現在もデザイン実務の中にいる私には「初めての仕事」で、一から学ばなければならない事ばかりで、会員の皆様にはなにかとご迷惑をお掛けすることと思いますが、ご容赦くださるようお願いいたします。

むずかしい状況下にある現在ですが、内外ともに魅力ある協会になればと考えており、微力ではありますが努力してまいります。

尚、勤務日ですが、月、水、金の週三日となりご不便をお掛け致します。ぜひ皆様方のご理解とご指導を賜りたくお願い申し上げます。

今回は、インテリアデザイナーによるライフスタイルの提案と、インテリアプランニングの実際を、広く一般の方々に知っていただく良い機会であったと思います。

住都公団主催インテリア提案募集にて、 JID会員多数入選

理事長 泉 修二

去る3月中旬、住宅・都市整備公団東京支社の主催で、社団法人日本インテリアデザイナー協会、財団法人店舗システム協会、東京インテリアプランナー協会の協力により、「都市住居・SOHO住宅のライフスタイル/インテリアの提案募集」が行われました。

対象となった物件は住都公団が建設中の「亀戸西団地（アーバンライフ亀戸）」で、募集内容は、＜都市住宅・SOHO住宅＞というテーマのもと、そこに住む人のライフスタイルを想定しインテリアの提案を行うというもの。

3タイプの住戸が指定され、現地見学会が3月26日、作品提出の締め切りが4月8日と制作期間が短かったにもかかわらず、15名の応募者から、Aタイプ11点、Bタイプ6点、Cタイプ7点の計24点の質の高い作品が提出されました。

審査の結果は、Aタイプ7点（内 優秀作品1点）、Bタイプ5点（内 優秀作品1点）、Cタイプ4点（優秀作品該当なし）が入賞となり、中でもJID会員の作品が6点（内 優秀作品2点）を占めるという喜ばしい結果となりました。

JIDの会員で受賞された方は、以下の通りです。

Aタイプ

（優秀作品）今崎努さん

（入 賞）鳥井貴正さん、野田和子さん

Bタイプ

（優秀作品）村口峯子さん

（入 賞）村口峯子さん、野田和子さん

入賞された皆様には、心よりお祝い申し上げます。

また、優秀作品の2点は実際にモデルルームとして施工され、一般に公開されました。

インテリアデザイン展活動報告

関東支部 教育・研究委員会

副委員長 佐藤 健一

去る7月1日から7日まで東京は秋葉原の株式会社タジマショールームにて関東支部教育・研究委員会主催、交流委員会協力によりインテリアデザイン展＜住まい・オールヌーボーの時代＞を無事開催することができました。

21世紀を迎えようとする情報通信時代の現代に、産業革命を背景とする機械文明時代の戦陣が100年ほど前の世紀末にどのようなデザイン活動や空間思考を有していたのか、会員のみにならず学生、一般の方々にも接していただくことを目的として企画したものです。内容的には、建築、インテリアのスケッチやリトグラフの他にアルフォンス・ミュシャのオリジナルデザイン画などの貴重な作品も展示され、実質5日間で100名をはるかに越える方々が来場されました。

さらに同時開催でオープニングセミナー＜アーツ&クラフト運動からオールヌーボーへ＞および学生を念頭としたインテリア基礎講座も企画し、盛り上がりを図りましたところ、参加申込みが当初それぞれ10人不足で開催も危ぶまれましたが、支部長、担当理事および本部、支部各委員長のご尽力のおかげでセミナー58名、基礎



インテリアデザイン展「オープニングセミナー」講師は榊沢成明氏

講座42名の参加を得て、盛況の内に終えることができました。参加者100名の内、7割ほどが学生を含めた非会員の方々と、当委員会が積極的に外部の人たちとの交流を計り、知識的情報を提供するという目的が微力ながら果たせたと考えております。

また、賛助会員である株式会社タジマ関係各位からもご好評のことばに加え、今後のスペース提供も快く引き受けていただきました。これからもこのような活動を通じて協会の対外的アピールや存在意義を高めてまいりたいと考えております。

住宅・都市整備公団 「建築技術試験場」見学報告

広報委員会 鳥井 貴正

先般、「住都公団主催インテリア提案募集」に応募する機会があり、そのときのご縁で、応募者の方々を中心に行われた、同公団の持つ「建築技術試験場」（東京都八王子市）の見学会に参加して参りました。

この試験場には、「資料・情報館」の他、住宅の構造・材料・性能・設備などを始めとした様々な実験施設が17棟建てられており、今回は、その中で「KSI住宅実験棟」「居住性能館」「集合住宅歴史館」の3棟を見学いたしました。

「KSI住宅実験棟」では、公団型スケルトン・インフィル住宅の実用化に向けて様々な研究が行われており、この中には今回の審査員もつとめられた山本棟子さんのデザインによる、KISモデル住宅（インフィルスタジオ）も設置されており、大変参考になりました。

「居住性能館」では「長寿社会対応型住宅部位実験室」が設置されており、住宅における介助施設などを始めとした、ユニバーサルデザイン導入への考察が行われていました。「集合住宅歴史館」では昭和2年に入居が始まった「同潤会代官山アパート」、同32年に建設された東京板橋区の「蓮根団地」、東京中央区の「晴海高層アパート」等

が移築・復元されており、当時の生活そのままを体験させていただくことができました。

そして、見学会の後で行われた意見交換会では、同じく審査員をつとめられた東京インテリアプランナー協会副会長の栗山正也氏から、「これを機会に、デザイナー・プランナーの立場から、これからの住宅問題に積極的に発言していくため、今回の参加者を中心に議論・情報交換の場を作りましょう」との提案があり、全員賛同のもと散会いたしました。

また、この「建築技術試験場」の見学会は、JID会員の皆様に広く参加いただけるよう、現在、交流委員会・教育研究委員会を中心に企画を進めていただいています。ご案内が届きましたら、皆様ふるってご参加下さい。

最後に、この見学会開催にご尽力いただきました、山本棟子さん、村口峯子さんを始めご協力いただいた皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。



山本棟子さんデザインによる「インフィルスタジオ」

平成11年度支部総会報告
と「その他」の事

中部事業支部総務部会 木辺 智子

平成11年5月16日（日）、名古屋市内「陶磁器会館」にて平成11年度通常総会を開催した。いつものメンバーと言えばそれまでだけれど和気藹々としたムードの中とどこおりなく終了。中部は総会を会員の点在する各地で催すことにしているが今年は名古屋開催だった。開催地である東区白壁地区は旧武家屋敷街であり、市の町並保存条例に基づく保存地区に指定されているいくつかの由緒ある建物が点在している。その中で会場の名古屋陶磁器会館も昭和8年RC造で建てられた非常に非常に美しい建築で現在はデザイナーや建築家などがオフィスとして借りているようだ。今回はそのサロンをお借りして総会を行った。

40周年記念「日本の生活デザイン」名古屋展は今年最大のイベントであり国際デザインセンター・中部デザイン団体協議会・JID中部会員の中で実行委員会を組織し運営にあたることになった。またIFI以来懸案である学生部会・一般ネットワーク会員（仮称）の立ち上げ等JIDフォーラムの際提案のあった「デザイン塾」とも合わせて具体化の検討もしていくことになった。

総会後豆腐懐石「くすむら」にて懇親会開催、体重増加傾向にある私にとってお豆腐料理は絶好のメニューで感謝感激。素敵なインテリアでまた感激しながら無事終了。

（名古屋にいらっしやることがあればこの界限とても良いところですよ！名古屋にいっぺんいりゃーせ）

その他：「私事ですが…」今年春より13年勤めた会社を退職し細々した仕事を始めました。9月に3人目も出産予定で4月には、自宅兼オフィスも完成する予定です。
ご紹介：中部事業支部では準会員として入会以来10年あまりずーと私が最年少で誰も入会してこないと不満を言っておりましたら恩師より「それは君の責任だ！」と、お叱りを受けまして、自分で進んで勧誘しないとなかなか入会してもらえないのだと言う事に気がつき、ハンカチ展をたまたま見に来た友人を説得してやっとその気にさせました。中部期待の新人（私より若い！やったー）原田さんをご紹介します。お花とインテリアなんて素敵これでまた中部女性陣強化だ！がんばるぞー

「日本の生活デザイン」名古屋展の
実施決定にあたって

中部事業支部担当理事 関 里絵子

JID40周年記念の2大事業の一つ「日本の生活デザイン」展が開催間近となりました。この展覧会が如何に意義ある事業であるかは皆様にもお認めいただけたと思いますが、中部事業支部ではそのことを重く見て、当地での実施を是非にと国際デザインセンターへのアタックを試みました。企画には御賛同戴けたものの、今日の資金不足のおり、困難が見込まれました。しかし幸いなことに名古屋市行政は、当地で開催なったIFI国際会議のお礼として400万円の助成金を予算化して下さいました。このことによって、国際デザインセンターの取り組みも本格的となりJID中部事業支部との共催実施に至りました。その後、中部デザイン団体協議会を加え4団体の構成とし、名古屋会員を中心の実行委員会を立ち上げ、現在10月の実施に向けて準備を急いでいます。開催に当たっては中部事業支部の全会員が総力をあげ、様々の角度からこれを応援し成功に導く予定です。このことの実現は申し上げるまでもなく、中部会員達のデザイナーとしての誇りと、JIDへの期待の現れであることを認識して戴きたい。“夢は自らの手で切り開く”といった中部会員の日頃鍛えた連帯活動の力であることも、そして勿論、デザイン都市・名古屋での開催となった大きな意義のことも。

デザイン運動の起こりから、『デザイン』が世界を駆け巡り、文化にまで発展した20世紀、新世界を前に検証する事の大切さをデザイナーならば理解しないはずはない。まして戦後日本の『住』に関わった、インテリアの立場からの発言は、次代の住環境を模索する大切な資料として還元されるだろう。インテリアデザイナーの歩いた道や努力を、考えや仕事を若者達に広く知ってもらい、その存在の重要性を理解して貰いたい。テーマ「つなぐ」の重要性が一番浸透したのは、あるいは中部事業支部なのかもしれない。



総会の様子

はじめまして…。

中部事業支部委員 原田 朱美

2年前、夫と花・器・炭焼珈琲の複合店“花沙舞蘭花(カサブランカ)”をオープンしました。花が専門の夫とインテリアの仕事をする私がなぜ珈琲(喫茶)か?というところ…。小売店としての花屋を考えた時、まず、資本力のない私たちが他店と差別化するには、技術とセンスで差をつけるしかありません。また、ただ素材としての花を売るだけの花屋ではなく、生活の中で気軽に花を楽しむコツを提案することがプロの仕事という考えのもと、季節の花に囲まれ、くつろいでお茶を飲みながら花のある暮らしを体験してもらおう、というコンセプトで花と炭火焼珈琲の複合店にしたいわけです。器は和陶器を用い、花器を含め販売もしています。

ところが、お客さんの反応は両極端で、花屋だと思っている人は「珈琲も飲めるの?」これはいいですが、逆に花好きの喫茶店としてとらえられ、マスター、ママと呼ばれると面喰らってしまい、「花も売っているの?」に至ってはがっかりときてしまいます。

デザインを崩さず店側の思いを伝えるのはある程度の時間が必要でしょうが、やはり簡単なことではないなとひしひしと感じています。

2年たった今でもその状況はあまり変わりませんが、おかげさまで徐々に認知されてきたのかギフトのお客様が少しずつ増えてきています。

また、店舗のディスプレイやウェディングブーケをはじめとしたブライダルフラワーコーディネート、展示会・講演会のメインディスプレイの増え始め、今後は私のインテリア業務とのタイアップを含め、この部分の強化をめざしていこうと考えています。

こんな未熟者の私ですが、本年より皆様の仲間入りをさせていただくこととなりました。どうぞよろしくお願い致します。



花沙舞蘭花 外観

近況雑感

広報部会出版委員 中村 憲二

伊勢湾に面した愛知県南知多町山海に、今年2月13日オープン、薫りでもてなす和風施苑——「源氏香」というリゾート旅館で専門誌にも紹介されている。この「源氏香」本館は、隣接する海栄館鱸亭のオーナーが新しく建てられたもので地上10階建、基本コンセプトは源氏物語をテーマに日本古来のアロマ「香」文化を取り入れて女性客をターゲットに絞り、女性が楽しめる旅館づくりをという内容で、館内のインテリアも平安朝風にまとめられている。中でも客室3Fから9Fうち7Fは、レディスフロアと言う事で女性のコーディネーターが、インテリアを担当された。

ここでのインテリアデザイナーとしての私の仕事は、昨年の4月から始まりインテリアパース図製作と全館の家具什器の拾出しと平面レイアウト及び家具什器のデザイン等の提案を担当させて頂きました。

その中で写真の1Fラウンジは、約19坪の奥に細長い空間で、当初は通路を挟んで両側に対面式のロビー椅子の配置でしたが、席数があまり取れない言うことでベンチソファにしたいとの要望が出た為、写真のような配置にこの場合、間仕切り部分から窓側迄の奥行が4.5m弱しかなく通路幅を確保する為、ベンチ側対面の椅子をスツールにして、窓側のアーム椅子をW770の小振りサイズにテーブルも同じく、全体にやや貧弱になるのではと心配されたがそれも感じることなく、ゆったり感が出た好例だと思う。

その他、和食処や客室洋室の家具什器などもデザインしたが、売店などは什器をデザインし製作図も作成し準備していたが、これは施行直前に業者の入替りがあり一部デザインも知らない間に変更ってしまった。

私にはその理由がはっきりとは告げられていませんが、今の時世を考えると何となくもがな過当競争の厳しさの現われかたと実感せずにはいられない気持ちです。



F1ラウンジ「若紫」喫茶カウンター側より、ベンチ側対面の椅子をスツールにすることで、通路幅とゆったりした空間が生かされた好例といえよう。

支部総会報告

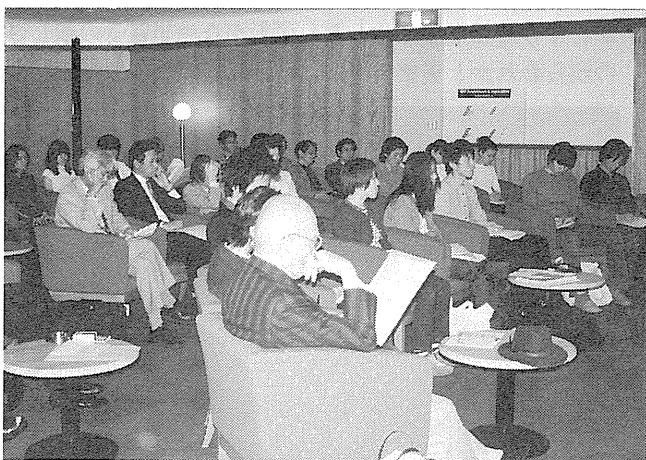
関西事業支部長 佐々木恵子

去る5月21日、ATCビル10階会議室で、支部総会が開催された。いつものように平成10年度の事業と収支決算の報告があり、続く11年度の事業計画案と予算案について審議した。本部交付の財源は、前年と変わりなく、厳しい情勢は続くものの、関西支部から本部への働きかけによって、少しずつではあるが事態は改善しているとの評価もあり、また、事業計画も各委員会のためまな努力を願って承認可決した。

総会の後、事業委員会による研究的あそびのグループが「環境問題」をテーマにおこなった研究の、発表を兼ねてパネルディスカッションを行った。学生の会のメンバーや賛助会員も集まり、あらためて問題の難しさ、複雑さを認識した90分だった。

パネラーのお話のあと、会議室はパーティー会場に早変わり。会員を中心にして、環境問題やデザインの話がつづき、学生も一緒にいくつかの輪ができた。例年になく簡素なしかし、なごやかで希望を感じる会となった。

「JID活動を楽しく」といってはじめて10年度がまたたくまに終わり、運営組織は2年目にはいりました。継続中の事業をはじめとして、他団体との共同事業などやりたいことをやりながら、いっばうで難問も解決しなければなりません。とりわけ組織の強化は、今年の最大課題ととらえています。充実した活動が組織の強化につながる。関西支部の魅力再発見！



総会

交流会



ハンカチ展報告

関西事業支部展覧会委員長 石原 薫

ハンカチ展が中部、大阪、関東と巡回して無事終わりました。はじめは参加者がなかなか集まらなくてウンザリでした。出品してこの展をもちあげて下さった方、展示のお世話いただいた方ありがとうございました。

ここでは大坂展の様子をご報告します。ヤマギワ梅田ショールームは場所が良く、なにより展示環境の良いところで、主に椅子の上部の白い壁面にピンナップしましてちょとおしゃれな空間作り。どっちかと言うと手を拭くモノと言うよりも絵葉書の感じでした。

私はハンカチを買うのが趣味かも、買い物が好きなのとしかも安い、結構四角の中に良いデザインのものがあるので時々使いもしないのを買ってしまいます。

ハンカチ展もいろんな人が好き勝手にデザインされて楽しい、中には想像していなかったのもあって驚きもしました。

できれば中部支部のように他のジャンルのデザイナーと一緒に遊びのハンカチ展をもう一度してみたいな。



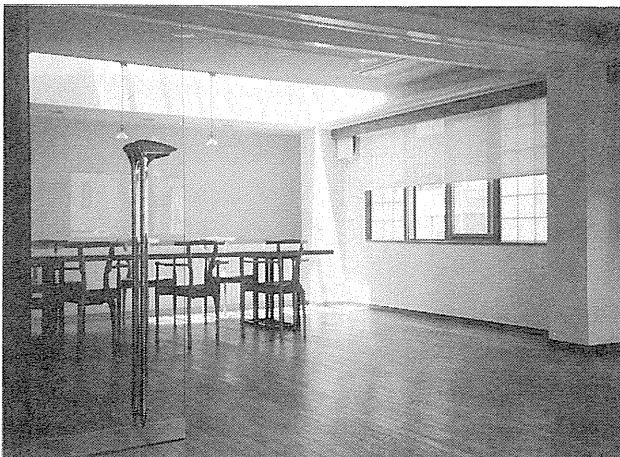
第二の人生もええもんでんな

関西事業支部広報委員 今西 隆次

昨今、日本中を爆発的に騒がせているのは、某球団のスーパーstar、偉大なる監督の例の夫人である。コンボ空爆も何のそのこの騒動は、「平和だなあ」とつい口から出てしまう。そのスキャンダルの内容はどうであれ、社会人ならもう定年退職という、いわば、第二の人生だの、余生をいかに過ごそうかと静かに考えてもいささかおかしくない歳であろう。それが、『愛してやまないのは、少年野球の育成』ということらしい。(筆者が『お父さんのためのワイドショー講座』なるものでえた情報である。)ますます意気盛んなことである。『愛してやまないもの』を持ち続けるとは、羨ましい限りで、確かに死ぬまで現役でありたいというのは理想であるが、年々朽ちていく肉体にいつまで鞭が打ち続けられるか、その精神力がいつまで残っているかは自分のことでありながら、不安材料は山とある。そんな中で、そのスキャンダル女史が肩肘張って堂々と生き抜いていける秘訣をいつか知りたい、掴みたいと考えている。

時代が変われば、人も変わっていくのは当然で、こうして、熟年パワーが炸裂するように、古いものを取り壊し、更地にして、新しいものを建てるだけがデザインではない。日本は昔から物を大切に作る心が日常の中に生きていたはずだ。捨てることを美德とする、『使い捨て時代』は終り、また時代が繰り返すように、建築であれ、ファッションであれ、料理であれ、使い切ることが重要なエッセンスになる。とは言え、何十年も続いた安全神話を覆すようなトンネルの基礎の手抜き工事では戦いきれず、いつかボロがでる。

「更地にして、建て替えもよし」と言う施主の意向に反して、躯体を生かし、古いビルを蘇らせたこの住居、筆者が死ぬまでは、崩れ落ちないでほしいと願ってやまない。



デザイン・コンペ大阪'99

課題「バリアフリーとエコロジー」

ーいま求められるものー

デザイン・コンペ大阪運営委員会では、「デザイン・コンペ大阪'99」の作品を募集いたします。本年度で第23回目を迎える本コンペは、新しい産業分野に寄与する課題を通して、新鮮で個性あふれるデザインを全国から公募するものであり、デザイナーの登竜門として、全国の企業やデザイン学校などから多数の応募を得ております。

本年度の課題は、「バリアフリーとエコロジー」ーいま求められるものーとして、「バリアフリー」と「エコロジー」のふたつの部門テーマに、あらゆる分野からの発想・機能・造形に優れた独創的なデザイン提案を募集いたします。

●名 称 デザイン・コンペ大阪'99

●主 催 デザイン・コンペ大阪運営委員会

〈構成＝大阪府・大阪市・大阪商工会議所・
(財)大阪デザインセンター〉

●課 題 「バリアフリーとエコロジー」ーいま求められるものー

私たちの暮らしの重要なキーワードである「バリアフリー」と「エコロジー」をふたつの部門テーマとして、バリアフリー対応や、環境意識の高まりの中での住宅機能をはじめ、生活用品、用具等の製品開発、システムの改善など、プロダクト、インテリア、ファッション、グラフィック、パッケージ等各分野にわたって、市場性も考慮した発想・機能・造形に優れた独創的なデザイン提案を募集。

●応募受付 1999年11月15日(月)～11月20日(土)

●応募先 財団法人大阪デザインセンター業務部
(下記問い合わせ先参照)

●賞 大 賞 1点 賞状：副賞100万円
優良賞 3点 〳：副賞(企業賞)10万円
奨励賞 3点 〳：副賞3万円
入 選 若干

●発 表 2000年2月～3月

●公開展示 デザインフェアOSAKA2000会場
2000年2月～3月予定 ATC(アジア大
平洋トレードセンター)ITM棟

●問い合わせ先 財団法人大阪デザインセンター業務部
(担当：釜田)

〒541-0055 大阪市中央区船場中央2-1-4・208船場セン
タービル4号館2階

TEL.06-6262-5661 FAX.06-6262-5665

Eメール odc5661@mbox2.inet-osaka.or.jp

ホームページ <http://home.inet-osaka.or.jp/~odc5661/>

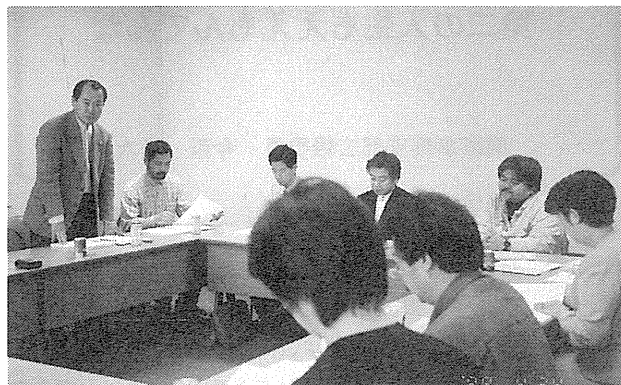
支部総会と行事を終えて

九州事業支部会員 溝口 新

去る4月24日（土）新緑の爽やかな好天のもと、平成11年度の九州支部総会が開かれました。開催場所は博多の中心街にオープンした再開発ビル見学も兼ね、福岡市で行われました。

午後1時、福岡の繁華街天神地区の都久志会館会議室で定刻には出席予定者も全員揃い議案審議に入る。報告事項は簡単に終わったが今年度の事業計画、組織の問題等にはJID皆さん思いの現れか殊の外熱心で議論百出、予定の2時間になってもなかなか終わらそうにない。名議長の石井会員のまとめで無事総会を終える。

皆さん会議の疲れもみせず次の見学場所へ、福岡から那珂川を渡り博多の町へと移動、3月6日グランドオープンしたばかりの博多リバレイン8Fの福岡アジア美術館入口に集合、開館記念展と第1回福岡アジアトリエンナーレを観賞、5～6名に対し案内説明係が1名ずつ付き流暢な解説がされた。見たこともないアジアが踊り出す・・・「コミュニケーション～希望への回路」がテーマでコンピュータ、情報機器を駆使し視覚、聴覚、触覚

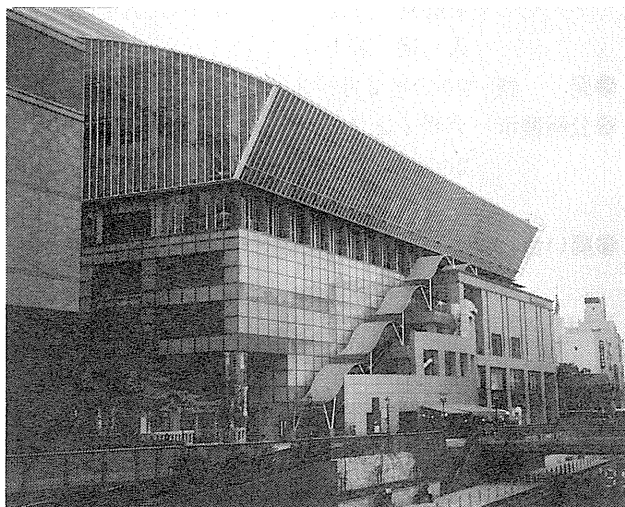


九州支部総会が開催される

への訴えを取り入れたアジアの若者達の現代美術の力作がゆったりとした会場に広がる。シュ・ビン氏（中国）の出品作品「お名前」に私も挑戦してみた。自分でMIZOGUTIとパソコン入力すると「新英文書法」による漢字のように並んだ英文の文字「噓」が印刷されて出てきた。暇な折にでも刻印してみたいと思っています。このアジア美術館はアジアの玄関口として福岡市が力を入れているもので、近現代のアジア美術を数多くまた幅広く紹介しアジアの今を映し出しています。作品展示だけでなくアーティストも参加して気軽に交流できるなどの特徴があります。老境に足を踏み入れている私としては理解するのに時間がかかり少々戸惑う有様でした。アートはこれからどう移り変わり進展していくのだろう。美術観賞後は自由行動となり各自、リバレインの見学をしました。リバレインは旧博多商人の街であった上川端商店街を再開発したビルで博多川のほとりに生まれた巨大な街（ビル）で新しい文化の発信地として専門美術館（7F, 8F）、本格的な演劇専門劇場の博多座（客席1490）、ホテルオークラ福岡（客室267）、超一流ブランドが集まったスーパーブランドシティのリバーサイドからなっています。皆さんやっぱり職業柄、ブランドシティに出店しているカッシーナ、インターデコールに足が向き小グ



MIZOGUTI



スーパーブランドシティ博多リバレイン



盛り上がりを見せた懇親会

ループでそれぞれ作品の品定めが始まり勉強会さながらであった。

懇親会はリバレインのレストラン街5Fのつきじ植村「燦楽」で6時30分より予定されていたが総会、美術観賞、リバレイン見学等で疲れが出たのか6時には数名のグループが着席、喉を潤し雑談の花が咲く。全員が揃うのを待ち構えて炭焼による焼き鳥と2度めの乾杯で宴が始まる。懇親会には支部事務局を引き受けて頂く予定の新垣さん（沖縄出身）の参加もありひとしきり沖縄の話で賑わう。しゃぶしゃぶの肉も次々と運ばれ食のペースは落ちるも話はますます盛り上がり楽しい時を過ごし散会する。

帰路の電車の中、久しぶりに皆さんと楽しいひとときを過ごせたことで心がすっきりした気持であった。やはりJIDの会員として顔を合わせお互いに話をするのが組織の強化と発展に大切なことだと今考えています。

九州支部第1回例会報告

九州事業支部会員 伊藤 邦隆

大分県は一村一品でその名を全国に広めた平松知事の元で各市町村ではそれぞれに特色のある地域振興が進められている。今回は日田以外の市町村でと言うこともあり佐伯、国東、別府、大川市と多彩な案がだされた。福岡会員が多いこともあり福岡から2時間以内を目安に別府での開催となった。

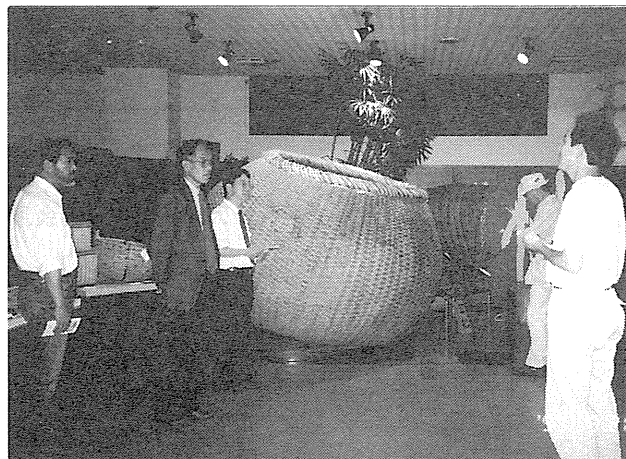
別府は温泉観光、竹細工といったイメージがある。平成6年に完成された別府市竹細工伝統工芸産業会館へ集合し例会が始まる。ちょっぴり淋しい8名の会員が参加してくれました。会館では宇野館長の説明で別府の竹産業の歴史、会館の設立の経過、取組が説明されて今日の厳しい社会の中で別府の竹細工も例外ではない。新しい工業材料の開発、アジアを中心とした海外製品の流入と苦しい状況。別府産業工芸試験場へ場所を移す。古谷研究員から休日にもかかわらず我々に説明をしていただいた。竹専門の公的試験所は全国唯一だ言うことである。我々の暮らしの中で身じかにある竹もその本質は以外と知らない。我々デザイナーにとってはインテリアを構成



別府市竹細工伝統産業会館入り口ホールにて

する材料の中に於ける竹の位置づけは以外と影が薄い。古谷研究員の説明を受けショールームを見学しながら竹の持つ個性の強い材に感心が強まる。十分な時間とは言えなかったが、会員の新たな情報としてこれから先のビジネスの中で一個の材料として位置づけが出来たはずである。

例会の最後は別府湾に面したホテル美松での交流会であった。交流会では大分県デザイン振興協議会会長の伊藤氏、副会長の谷さん、産業工芸試験所の豊田氏を囲んで交流の環が広がった。今回の例会は梅雨の最中、雨の中参加者が少々淋しかったが、参加した会員はそれぞれ情報を得る良い機会であったと思う。「動かなければ出会えない」自ら情報を求めて動くことが大切ではないだろうか。最後になりましたが今回の例会の企画からお世話をして頂きました別府の小野会員にお礼を申し上げます。



魚を入れる巨大なかご（いけす？）に驚く

[会 員 の 異 動]

●ご面倒でも、1997～1998年版「会員名簿」の該当ページを開けて、ご訂正ください。

●正会員

会 員 名	異 動 事 項	新
小 寺 恵二郎 (関東 P64)	事務所移転	神奈川県中郡大磯町東小磯 〒255-0004 TEL 0483-60-1075 FAX 0483-60-1078
中 島 隆 美 (関東 P100)	自宅移転	千葉県浦安市日の出5番地 〒279-0013
南 等 (関東 P122)	事務所移転	神奈川県横浜市西区北幸2-13-9 北幸ぐうはうすB504 〒255-0004 TEL 0483-60-1075 FAX 0483-60-1078
竹 園 康 志 (中部 P93)	自宅・事務所移転	岐阜県高山市山田町863-168 〒506-0058 TEL・FAX 0577-35-5525
東 友 文 (関西 P154)	自宅移転	大阪府和泉市青葉台2-14-11 〒594-1153 TEL 0725-56-7218
安 藤 真 吾 (関西 P154)	事務所開設	安藤デザイン事務所 大阪府大阪市南船場4-13-14 柴田ビル3F 〒542-0081 TEL 06-4963-7129 FAX 06-6245-4641
岸 田 哲二郎 (関西 P166)	自宅移転	山口県防府市新田905-1 〒747-0825 TEL同じ
関 光 信 也 (九州 P186)	自宅所移転	佐賀県佐賀市朝日町7-25 〒840-0053

●賛助会員

会 員 名	異 動 事 項	新
アスワン(株) (賛助 P194)	担当者	経営企画室 角野 充
東陶機器(株) (賛助 P206)	担当者	デザイン本部 茅ヶ崎デザイングループ 金田 剛 TEL 0467-54-3319
ファミリアプランニング研究所 (賛助 P209)	担当者	金光 清博

1999/6～7

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報 (1999年通巻207号) 1999年7月31日発行

発行所/社団法人 日本インテリアデザイナー協会

発行人/泉 修二

〒163-1008 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー8F

TEL 03-5322-6560 FAX 03-5322-6559

企画・編集/JID本部・事務局 制作/be-one